

学びに "プラス 1" ~単元を総括する発問~

単元のまとめに、新聞やパンフレット作り等を行うことがあります。その際、次のような指示をしただけで、まとめに取り掛からせてはいませんか？



これまで学習してきたことをパンフレットに
まとめましょう。
まとめ方は次の通りです。(中略)
さあ、それでは始めてください。

このような指示と説明だけでは、子どもたちに、「単元の目標に迫る」まとめをさせることは難しいでしょう。

そこで、「単元を総括する発問をプラス」することにより、まとめの学習活動を有意義なものにする実践例を紹介します。

〈小学4年「わたしたちの県のようす」～パンフレット作り～〉

この単元の目標は、自分たちの県の様子について、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県の特色を考えるようにすることです。そこで、この目標に迫るために、単元のまとめとしてパンフレット作りを行う際に、次の発問をします。

【プラス1の発問】
福島県のパンフレットを作ります。
表紙に写真を3枚載せます。
どんな写真がいいと思いますか？



この発問では、表紙に掲載する写真が、福島県の特色を表したものかどうかが検討の基準になります。また、この発問では「3枚」が重要ワードです。子どもたちは、福島県の特色である三つの地域区分である「会津・中通り・浜通り」の3地方から、それぞれの特色を表す写真を1枚ずつ選ぼうとすることが予想されるからです。

発問後に、個々の子どもの考え方（写真を選んだ理由等）を全体で交流させ、話し合わることで、単元の学習を振り返りながら、福島県の特色について改めて考えを深めさせることができます。そして、単元の目標である「福島県の特色」を強く意識させながらパンフレット作りに取り組まることができます。

単元を総括する発問を考える上で留意したいことは次の二つです。
一つ目は、発問が、その単元の目標を達成させるのに有効であること。
二つ目は、発問以前に、子どもたちに、内部情報（単元の学習内容等）を蓄積しておくこと。
教師は、単元の目標を達成するために授業を行います。したがって、**単元を総括する発問も単元の目標に迫るものにすることが大切です。**

